

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493800138	事業の開始年月日	平成21年10月1日
		指定年月日	平成21年10月1日
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター 横浜南山田		
所在地	(〒224-0026) 横浜市都筑区南山田町3969		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和2年12月19日	評価結果 市町村受理日	令和3年4月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

認知症対応型として地域に根ざし、全職員が認知症のプロとしての誇りを持ち自分たちが持っている知識や知恵を活かし、地域貢献を目指している。

超高齢化社会に対応し、地域になくてもならない存在感のある事業所として、学習を怠ることなく、常に向上心をみがいしている。

職員はご利用者本位、ご利用者の心に寄り添ったケアを心がけ、安心安全な生活が送れるような業務に徹している。

いかなる状況においても冷静な判断と連携によりスムーズな対応が出来るように努力している。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル 9階		
訪問調査日	令和2年12月23日	評価機関 評価決定日	令和3年2月23日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】

ニチイケアセンター横浜南山田は、横浜市営地下鉄グリーンライン東山田駅から徒歩5分程度の場所にある鉄骨2階建てのホームである。事業所や住宅が混在している地域だが、畑も多く残っており、コロナ禍以前には散歩の際に、利用者が畑仕事をする方と積極的に会話を交わすなどの交流があった。この事業所は共用型認知症対応型通所介護の指定も受けているが職員の確保が難しく訪問調査時点で運営はしていない。

【利用者が元気で楽しく過ごせる支援の工夫】

新型コロナウイルス感染症予防対策上、散歩を中止したことで、外出機会が無くなり、利用者のストレスが高まった。その対策として、職員は少しでも利用者に身体を動かしたり、気分転換を図ってもらおうと事業所内の廊下を使っての歩行運動、階段を使っての昇降運動、ビデオを活用した食前の運動を行っている。また、レクリエーションの種類を増やし少しでも楽しい時間を過ごしてもらうように工夫している。12月のクリスマス会の日に向けて準備を進めている。当日の内容は、職員が終日仮装して普段と違う雰囲気をつくり、綿あめの機械を借りて利用者一人一人に綿あめを配り、ミニ運動会開催である。

「食」に関しては、通常は配食業者からの食材提供を受け事業所内で調理しているが、イベント時や、それ以外でも、時折、寿司や釜めし等の出前を取り、楽しんでもらっている。また、週に2回、駐車場に「移動パン屋」が来所し、利用者が翌日の朝食用に好きなパンを選んでいく。

【両ユニット間の職員交流によるケアの統一】

他事業所からの異動者や新入職者が増えたため、従来はユニット毎に開催していたカンファレンスも兼ねたフロア会議を両ユニット合同で開催することとした。職員間で、このホームとしてのケアの仕方や、両ユニットの利用者の様子を共有し、突発的なシフト変更があっても、いずれのユニットの利用者にも対応出来るようになっている。月1回は、1階と2階合同のカラオケ大会などを企画し、利用者も交流している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ニチイケアセンター横浜南山田
ユニット名	きらめき

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔と安らぎと暖かさを」	社是は事務所に掲示し、職員は出勤時に確認している。理念は職員同士で話し合い、ユニット毎に作成した。1階は「その人らしさを大切に」とし、利用者一人一人の個性や思いを優先したケアを行うことを目指し、2階は「笑顔と安らぎと暖かさを」として、利用者にとって居心地の良いアットホームな雰囲気の醸成を目指している。管理者は、社是や理念について職員の理解が徹底しておらず、実践につながっていないことを課題と捉えている。	全職員で社是や理念を共有・理解し、理念の実践に向けて職員の意識が高まるような取組を期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会長、民生員、ケアプラザ等コロナの影響により交流の場を設ける事が出来ない。	南山田町内会に加入している。新型コロナ感染症予防のため、現在は散歩を中止している。昨年のクリスマス会以降、地域との交流は行っていないが、町内の情報は回覧板で把握している。ホームの様子を聞いてくれる民生委員もいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ニチイ祭りや、行事等コロナで行う事が出来ないが、地域の方から介護に対する悩みなど相談を受ける事があり、話し合いをする事がある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者家族からの要望や意見は謙虚に受け止め、施設内会議で話し合い検討し実施している。 (コロナの為電話等でのやり取り)	今年度は書面開催としている。従来の参加者は民生委員、家族のみで行政、地域包括支援センターには声掛けをしているが、これまで出席はない。家族には要望を聞いているが、ほとんどが面会や利用者の生活物品で不足が無いかの確認である。	行政、地域包括支援センターにも書面で意見を照会するなど、幅広い視点からの助言や意見を入手し、事業所の運営に活かすことを期待します。

5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事など相談させて頂く事もあり、都度親切に対応して頂いている。	管理者は、2020年7月から現職となり、不明な点を都筑区高齢・障害支援課に聞いている。最近では、利用者の後見人が亡くなった例があり、その対応についての相談で、区の担当者が来所し、具体的な助言を受けた。	
---	---	--	-------------------------------------	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修会を定期的実施し、身体拘束をしないケアを徹底している。 入り口はご利用者の安全のため、ご家族の了解のもとに施錠している。	家族の了解を得て玄関及びユニット出入り口は施錠している。利用者の外に出たい気配を察した時は、職員と一緒に掛け、気持ちが落ち着くようにしている。身体拘束防止の研修は6月と10月に集中的に実施したほか、月に1度開催するホーム会議の中で、毎回「適切なケア」に関して、管理者と職員で話し合いを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス、会議等で高齢者虐待について学習会を実施し徹底した虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、ケアマネージャーは権利擁護が必要とされるご利用者の関係者と話し合い支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際、重要事項説明書、契約書等十分な時間をかけ説明し合議と納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月利用者の状況を細かく書面及び電話等で伝えている。 ご家族来訪時にも日常生活、健康状態等を伝えながらご意見を頂いている。	利用者の様子や状態を詳しく記した「状況報告書」を計画作成担当者が作成し家族に送付している。家族は、質問や意見・要望について電話をしてくることが多い。利用者の運動不足を心配する家族には、機能訓練の実施状況を書面で説明した。運営法人が実施したアンケートでは、リモート面会の要望が多く、約1か月後にタブレットを使った面会を開始した。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行うホーム会議、カンファレンス等で、職員からの意見を聞き、その場で話しにくい内容であれば別機会に直接聞き取る。	毎月、ホーム会議と、カンファレンスを兼ねたフロア会議を開催している。近時、フロア会議も1階、2階の合同で開催している。管理者は毎日職員に声掛けして、声を挙げづらい職員からも意見を汲み取るよう努めている。最近では、利用者への声掛けの仕方について職員から意見が出たことを受けて、ケアの均一性、レベルアップを図るためにも、職員同士で気が付いたことを伝えるように助言した例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の能力、性質に合わせた声かけ、激励を心がけている。またキャリアアップ制度での評価で給与引き上げややりがいをもって働けるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内では入社時研修、社内フォローアップ研修があるが、施設内では職員研修年間計画に沿った研修をおこなっている。外部研修については全職員に周知し希望者は参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横浜市グループホーム連絡会の講習会参加。ケアプラザの講習会、地域他グループホームとの交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント後、カンファレンスでご本人の経歴、既往歴や家族構成等を伝え、今後ご本人にとって安心安全な生活が送れるようケアプランを作成し実行に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望時や契約時に、ご家族として悩んでいること、困っていることに傾聴しアドバイスさせて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントでのご本人の状況、ご家族からの情報を丁寧に聞き取り、サービス開始前にご本人にとって何が必要かを話し合いサービス提供をおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護度にもよるが、日常生活の中で、ご利用者が出来ることと出来ないことを見極め、出来ることは積極的に行って頂けるよう働きかけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時に、ご利用者の様子をお知らせしている。また、日常生活状況を月に1度、全ご家庭にお手紙として送付している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所の際、ご本人の生活上で大切にしていた物、生活暦、家族構成を聞き取り会話の中にとりいれている。また、ご友人やご親戚の来所時もお家族に繋げ、ご本人が受け入れやすくなるようにしている。	家族とはオンライン通話、またはパーティションを隔て、マスク着用、検温等、新型コロナウイルス感染症対策を講じた事務所で面会を、一人月1回、10分間実施している。オンライン通話は高齢の家族にはタブレットの操作が難しい場合もあり頻度は少ない。季節の俳句作り、ぬり絵や折り紙、編み物、縫物などの趣味や、得意な家事などの生活習慣が継続できるよう、声掛けをして取組みを促したり、作品をリビングルームに飾ったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事の時だけではなく日常的に1階,2階の交流をおこなっている。また、一人ひとりの状況にあわせた関わり合いができるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、ご連絡をとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族とも話し合い、ご利用者本位のケアができるようカンファレンス等で検討している。	耳が聞こえないなど、思いや意向の把握が難しい利用者が少数名いるが、表情や手振り、ジェスチャー、筆談、口の動き、仕草などから読み取っている。職員が初めて見たその方の様子や、出来たことを職員間での共有漏れがないように同じ内容を「申し送りノート」、「業務管理日誌」、「介護記録」に記載し、その方をより理解し、意向の把握につながるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際のアセスメントやご家族からの情報をまとめ、情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に一日の状況、健康状態、食事量、排泄等詳しく記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、短期目標、長期目標を設定。ご利用者に即した生活が出来るよう話し合っケアプランを作成している。	入居時に仮のケアプランを作成し、1か月で見直し、本プランに移行している。長期目標は1年、短期目標は半年で見直している。状況に応じて随時見直すこともある。プラン更新前にはモニタリングを実施している。訪問看護師にも意見を聞いている。毎月のカンファレンスの際に、気になる利用者について職員全員で情報共有している。毎月、ホームの目標を決めている。「転倒防止に努める」という目標を設定した際は、各利用者について対応の仕方を具体的に設定して、ホーム全体として転倒の防止が図られた。	

27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護記録、管理日誌、往診記録等に記入し情報共有し、申し送り事項は申し送りノートに記入している。</p>		
----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族と電話や手紙でまたは来所持に相談させて頂き、ご本人には会話の中で要望を聞き、その時々生活状況に応じたサービスをおこなっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節ごとの町会行事に積極的に参加している。近くにご利用者が通える公園等がないため、近隣を散歩しながら地域住民との交流を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時、協力医療連携の説明をし、全員月2回の往診を受けている。歯科往診、月2回。訪問看護毎週1回。	全利用者が月に2回の協力医の訪問診療を受診している。訪問歯科が月に2回、訪問看護師は毎週1回来所し、健康管理をしている。協力医療機関以外への通院は家族対応としている。家族の要望もあり医療保険対応で訪問マッサージを受けている利用者が4名いるが、気分転換にもつながり、利用者の楽しみになっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の心身の状況は往診記録に記入し、訪問看護師に伝えて個々の状況を把握し、看護を受けていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先担当医にご利用者の容態をこまめに聞き、ソーシャルワーカーと今後の方向性を話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時、「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し相互で取り交わしている。かかりつけ医とご家族が、今後の方向性を話し合う機会を随時もうけている。	「重度化した場合における対応に係る指針」があり、家族からの同意書を得ている。医師が終末期と判断した時点で「看取り介護」の同意書を交わし、看取り介護計画を作成の上、ケアに当たる。今年度は事業所での看取りはなかった。何か変化があった場合、認知症の進行が著しい場合には医師、家族とで話し合う場を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者容態急変時の基本連絡ルート、マニュアルを作成し、会議等で徹底、訓練している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の非難訓練の予定があるが、コロナの影響により9月に1度水害を想定した自主訓練を行った。	2020年9月に浸水を想定した垂直避難の自主訓練を実施した。火災想定訓練は消防署立ち会いの下、今年度中に行うことにしており消防署に実施時期の相談をしている。コロナ禍で、地域の防災訓練も実施されていない状況であるが、今後、避難時の地域住民の協力依頼も民生委員を通じて行うことにしている。災害用備蓄として、水、食品、カセットコンロ等が運営法人のルールに従って管理されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当施設では、ご利用者には敬語を使うことを徹底し、ご利用者の人格を尊重する言葉で対応している。	入居時に呼びなれた呼び方を確認し、苗字の場合でも名前の場合でも「さん」付けとしている。ホーム会議時に、入浴時の異性介助による羞恥心への配慮を忘れないことや、声掛け時の口調や語勢で利用者の感じ方が違うこと等、具体例を出しながら管理者は職員を指導し、工夫や改善を促している。最近では職員同士でも利用者の対応について、意見交換する場面が増えていると管理者は感じている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で、ご本人の好みや意向を聞き、なるべく希望通りに生活が送れるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	「その人らしさを大切に」との理念をかけた、ご利用者のペースに合わせた生活が送れるよう、またそれが実行できているかカンファレンス等で確認している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に沿った身だしなみができるよう、自己決定していただいている。		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>下ごしらえ、取り分け、後片付けなど出来ることは積極的に行って頂いている。また、器や食材の彩りにも気を配り、食事が楽しくなるよう工夫している。</p>	<p>業者により食材が提供され、事業所にて調理している。家事経験の豊富な利用者が多く、調理、配膳、盛り付け、食器洗い等の役割分担を決めて職員と一緒にしている。毎食前、ボードに献立を書き、その内容を読み上げる利用者がある。それが皆での楽しい食事開始の合図となっている。毎月の誕生日会では出前の寿司など、当事者の希望でメニューを決めている。ケーキを購入し、ろうそくを立ててお祝いをしている。クリスマス会では、一人用のプレートを使って食事の盛り付けを工夫し、職員も同席して同じものを食べている。食事の時間として2時間を確保し、利用者が茶碗や箸を持ち、職員は器を下から支えるなど、時間がかかっても、出来る限り自分の力で食べることを大切にしている。管理者は、職員の都合で自力での食事を妨げないよう、厳しく指導している。</p>	
----	----	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	担当医や看護師のアドバイスをもとに、食事量や水分量を介護記録に記入し、ご本人の状態に応じたケアをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアを行っている。ご自分で出来ないご利用者には、職員が介助し清潔保持をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立でないご利用者には個々の週間に合わせた時間に排泄を促し、自立排泄を支援している。	日中、オムツの利用者はいない。排泄チェック表を活用しトイレに誘導している。夜間は睡眠優先の方が多く、パットを利用している。夜間定時に誘導する方もいる。転倒防止のためポータブルトイレを利用する方が3名いる。ポータブルトイレ使用時も、危険の無いように、少し明かりを取り入れて見守っている。家族の希望で、利用者の半数はセンサーマットを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事前、15時に運動。施設内での歩行運動などをおこなっている。おやつに乳製品をお出しし、便秘予防をしている。便秘時には医師や看護師にアドバイスを受ける。		

45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	その日の体調、ご本人の希望に合わせて入浴していただいている。	入浴は週に2~3回を目安とし、入浴しない日は清拭を行っている。お湯は毎回交換している。同性介助の希望が多く、入浴時間を調整して全て対応している。入浴を好まない方には、声掛けを工夫したり、訪問理美容の日に合わせて誘ったりしている。ヒートショック対策として浴室内に温風ヒーター、脱衣所に床暖房とヒーターを備えている。浴室入口に「湯」の暖簾を下げて入浴気分を盛り上げる工夫をしている。冬至の日は柚子湯を楽しんだ。	
----	----	--	--------------------------------	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意思にお任せし個々に休息していただいている。特に昼食後は居室で休まれる方が多い。リビングで過ごす事を希望される方もいらっしゃる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診後、薬剤師の服薬指導を受けている。処方箋が変更する場合は、往診記録に処方箋の内容を記入。全員で共有、確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お掃除、洗濯などの家事、炊事をして頂く事により、無くてはならない存在と自覚して頂いている。家事が難しい方には、施設内の飾りつけなどお願いし作品を張り出している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出が出来ていない。	新型コロナ感染症予防対策上、散歩は中止しており、駐車場での外気浴を楽しむことに留まっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは、お預かりしているが、本来はご本人が希望する物があれば、一緒に買い物に出かけることもある。(コロナで出来ない)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望でご家族に電話をかけていただいている。手紙を書ける方はいないが、ご家族からのお手紙をお渡しし、返事はお電話をかけ、ご家族に繋げている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の清潔の保持（手すりなどの消毒）や空調の温度差の変化が無いように努めている。 室内は季節にあった装飾をご利用者と作成したり、華やかさの中に落ち着きがある色彩になるよう工夫している。	新型コロナ感染症対策として、換気に留意し、温湿度管理はエアコンと加湿機能付き空気清浄機で行っている。床は毎日モップ掛けし、アルコールで拭いている。新型コロナ感染症発生以前から手指消毒を徹底し、テーブル、キッチン、調理器具等は次亜塩素酸で消毒している。トイレの便座は、利用者の皮膚のかぶれに配慮した消毒液で消毒している。毎月、季節を感じられるよう、リビングの掲示物や装飾には職員が工夫を凝らし、利用者の俳句やぬり絵を作品コーナーに展示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下奥に応接セットがあり、ご利用者が集まり歌を歌ったりおしゃべりを楽しまれている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はご家族とご本人が話し合い、日常生活で使い慣れたものや必要とするものをお持ちいただいている。	表札は職員の手作りで目立つようなデコレーションが施され、利用者や家族に喜ばれている。クローゼット、カーテン、エアコン、照明、避難用はしごが備え付けられ、介護用ベッドの貸与もある。自宅の居室で使用していた馴染みの家具をそのまま持ち込む利用者が多い。それぞれ自分らしい居心地の良い居室が整えられている。	

55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の随所に手すりがあり転倒防止しながら自力歩行できるよう工夫している。トイレや浴室、居室が一目で分かるよう名前やマークなどを貼り、工夫している。		
----	--	---	--	--	--

事業所名	ニチイケアセンター横浜南山田
ユニット名	ふるさと

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしさを大切に」		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会長、民生員、ケアプラザ等 コロナの影響により交流の場を設ける事が出来ない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ニチイ祭りや、行事等コロナで行う事が出来ないが、地域の方から介護に対する悩みなど相談を受ける事があり、話し合いをする事がある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者家族からの要望や意見は謙虚に受け止め、施設内会議で話し合い検討し実施している。（コロナの為電話等でのやり取り）		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事など相談させて頂く事もあり、都度親切に対応して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6		○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修会を定期的実施し、身体拘束をしないケアを徹底している。 入り口はご利用者の安全のため、ご家族の了解をもとに施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見 overs されることのないよう注意を払い、防止に努めている	カンファレンス、会議等で高齢者虐待について学習会を実施し徹底した虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、ケアマネージャーは権利擁護が必要とされるご利用者の関係者と話し合い支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際、重要事項説明書、契約書等十分な時間をかけ説明し合議と納得を図っている。		
10		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月利用者の状況を細かく書面及び電話等で伝えている。 ご家族来訪時にも日常生活、健康状態等を伝えながらご意見を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行うホーム会議、カンファレンス等で、職員からの意見を聞き、その場で話しにくい内容であれば別機会に直接聞き取る。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の能力、性質に合わせた声かけ、激励を心がけている。またキャリアアップ制度での評価で給与引き上げややりがいをもって働けるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内では入社時研修、社内フォローアップ研修があるが、施設内では職員研修年間計画に沿った研修をおこなっている。外部研修については全職員に周知し希望者は参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市グループホーム連絡会の講習会参加。ケアプラザの講習会、地域他グループホームとの交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント後、カンファレンスでご本人の経歴、既往歴や家族構成等を伝え、今後ご本人にとって安心安全な生活が送れるようケアプランを作成し実行に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望時や契約時に、ご家族として悩んでいること、困っていることに傾聴しアドバイスさせて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントでのご本人の状況、ご家族からの情報を丁寧に聞き取り、サービス開始前にご本人にとって何が必要かを話し合いサービス提供をおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護度にもよるが、日常生活の中で、ご利用者が出来ることと出来ないことを見極め、出来ることは積極的に行って頂けるよう働きかけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時に、ご利用者の様子をお知らせしている。また、日常生活状況を月に1度、全ご家庭にお手紙として送付している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所の際、ご本人の生活上で大切にしていた物、生活暦、家族構成を聞き取り会話の中にとりいれている。また、ご友人やご親戚の来所時にご家族に繋げ、ご本人が受け入れやすくなるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事の時だけではなく日常的に1階,2階の交流をおこなっている。また、一人ひとりの状況にあわせた関わり合いができるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、ご連絡をとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族とも話し合い、ご利用者本位のケアができるようカンファレンス等で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際のアセスメントやご家族からの情報をまとめ、情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に一日の状況、健康状態、食事量、排泄等詳しく記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスを行い、短期目標、長期目標を設定。ご利用者に即した生活が出来るよう話し合っケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、管理日誌、往診記録等に記入し情報共有し、申し送り事項は申し送りノートに記入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族と電話や手紙でまたは来所時に相談させて頂き、ご本人には会話の中で要望を聞き、その時々生活状況に応じたサービスをおこなっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節ごとの町会行事に積極的に参加している。近くにご利用者が通える公園等がないため、近隣を散歩しながら地域住民との交流を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時、協力医療連携の説明をし、全員月2回の往診を受けている。歯科往診、月2回。訪問看護毎週1回。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の心身の状況は往診記録に記入し、訪問看護師に伝えて個々の状況を把握し、看護を受けていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先担当医にご利用者の容態をこまめに聞き、ソーシャルワーカーと今後の方向性を話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時、「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し相互で取り交わしている。かかりつけ医とご家族が、今後の方向性を話し合う機会を随時もうけている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者容態急変時の基本連絡ルート、マニュアルを作成し、会議等で徹底、訓練している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の非難訓練の予定があるが、コロナの影響により9月に1度水害を想定した自主訓練を行った。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	4	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当施設では、ご利用者には敬語を使うことを徹底し、ご利用者の人格を尊重する言葉で対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で、ご本人の好みや意向を聞き、なるべく希望通りに生活が送れるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	「その人らしさを大切に」との理念をかかげ、ご利用者のペースに合わせた生活が送れるよう、またそれが実行できているかカンファレンス等で確認している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に沿った身だしなみができるよう、自己決定していただいている。		
40		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえ、取り分け、後片付けなど出来ることは積極的に行っている。また、器や食材の彩りにも気を配り、食事が楽しくなるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	担当医や看護師のアドバイスをもとに、食事量や水分量を介護記録に記入し、ご本人の状態に応じたケアをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアを行っている。ご自分で出来ないご利用者には、職員が介助し清潔保持をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立でないご利用者には個々の週間に合わせた時間に排泄を促し、自立排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事前、15時に運動。施設内での歩行運動などをおこなっている。おやつに乳製品をお出しし、便秘予防をしている。便秘時には医師や看護師にアドバイスを受ける。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	その日の体調、ご本人の希望に合わせて入浴していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意思にお任せし個々に休息していただいている。特に昼食後は居室で休まれる方が多い。リビングで過ごす事を希望される方もいらっしゃる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診後、薬剤師の服薬指導を受けている。処方箋が変更する場合は、往診記録に処方箋の内容を記入。全員で共有、確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お掃除、洗濯などの家事、炊事をして頂く事により、無くてはならない存在と自覚して頂いている。家事が難しい方には、施設内の飾りつけなどお願ひし作品を張り出している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出が出来ていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは、お預かりしているが、本来はご本人が希望する物があれば、一緒に買い物に出かけることもある。(コロナで出来ない)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望でご家族に電話をかけていただいている。手紙を書ける方はいないが、ご家族からのお手紙をお渡しし、返事はお電話をかけ、ご家族に繋げている。		
52		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の清潔の保持（手すりなどの消毒）や空調の温度差の変化が無いように努めている。室内は季節にあった装飾をご利用者と作成したり、華やかさの中に落ち着きがある色彩になるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたいご利用者は居室で過ごされる。		
54		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はご家族とご本人が話し合い、日常生活で使い慣れたものや必要とするものをお持ちいただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の随所に手すりがあり転倒防止しながら自力歩行できるよう工夫している。トイレや浴室、居室が一目で分かるよう名前やマークなどを貼り、工夫している。		

目 標 達 成 計 画

専業所名 ニチイケアセンター横浜南山田

作成日 2021年4月3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	全職員における理念や社是への理解が欠けている	全職員の理解出来るチームとしてケア出来る施設にできる。	ホウ会議や勉強会などの機会を設けて利用の活用と説明と話し合いにより理解を深め、全職員の同じ意識の元ケア出来る様になる。	2021/3～
2	4	行政や地域と対話のコミュニケーション不足	幅広い視点から助言や意見を取り入れ、より良い施設運営が出来る様になる。	コロナの中でもTELや書面でのやり取りを増やし、様々な事でも意見を頂いたり、アドバイスを取り入れ、視野を広げて行く	2021/3～
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。